スマートけいはんなプロジェクト地域活性化ワーキンググループ活動における、エレベータデジタルサイネージの関心度感知機能を活用した掲載コンテンツ自動セレクト機能の開発および機能付加実証

代表企業：（株)けいはんな　　実施期間：令和４年7月1日～令和5年1月31日

＜事業の目的＞

本PJにおける地域活性化WGの大目標は、けいはんな学研都市の地域住民や就業者の利便性と質の向上、就業者の活動エリアの拡大にある。その手段の一つとして、けいはんなプラザ内の入り口やラボ棟エレベータにもデジタルサイネージが設置されている。けいはんなプラザには90社弱の研究機関や企業が存在するが、これらの企業活動に有意義な補助金や交流イベント等々の情報を、様々な視聴者の視聴時刻に合わせて展開し、視聴者層の満足度を向上させ、視聴者数を増やして貴重な情報を入居企業の方々へ提供したい。

そのため、今回の実証事業では、実証ステージとしてけいはんなプラザ内のデジタルサイネージ5台の顔認証機能のシステムを改善し、視聴数や関心度（視聴時間と表情から算出）を向上させたい。

実証時の定量的目標としては下記の通り。

・視聴者数2,290名（2021年10月）の倍増

・（顔認証機能での測定による）関心度AVGの向上

定性的な目標としては、上記の関心度や視聴者数向上、すなわち入居者それぞれのニーズに合致した情報提供の確度を上げる事で、入居企業が各種補助金や支援機関の機能をあますことなく知る機会を与える事や、イベントや本プロジェクトへの興味を向上させることなどを目標としたい。

＜今後の展望＞

今回の実証により、デジタルサイネージへの注目度を大きく向上させることが出来たが、ラボ棟入居者約6千人強および来訪者にスマートけいはんなプロジェクトに対してより一層の関心や参加意識を示してもらうことが出来た。

MaaSWGの活動状況にもよるが、ラストワンモビリティの乗用車待機状況の閲覧等も機能搭載できれば、モビリティハブ構想に大きく貢献できる。

また、今後、京都府でも展開されるデジタル田園都市構想の新しいサイネージやスマートウオッチとの連携も検討してみたい。

＜事業の実績（成果）＞

・視聴者数推移　2021年10月＝2,290名（実証前）
2022年　9月＝3,177名（実証開始）
10月＝3,945名
11月＝4,099名

実証前に告知したこともあって、9月から視聴者数は前年同期比で1.5倍となり、11月には約2倍の4千人を超える視聴者数を獲得できた。（なお、この視聴者数には5秒以下の視聴者の数は含まれていない。）

・開発した主な新機能

視聴数が少なかったコンテンツ、もしくは新規掲載するコンテンツを視聴多い時間帯(視聴多い順に12時台、9時台～と判明)に自動振り分けする機能を搭載し、視聴者数を伸ばす事が出来た。また、その振り分け機能によって前週に低い関心度や視聴者数であったコンテンツの視聴数を伸ばすことができ、全コンテンツをまんべんなく閲覧いただけ、関心度もほぼ全コンテンツで1.75±0.01点(3点満点)とすることが出来た。なお、関心度が2週連続で1.5未満となったコンテンツは自動削除される機能も搭載したが、上記の通り関心度が前週に低かったコンテンツも翌週には上げる事が出来ているため、現時点で自動削除されたコンテンツは無い。

・その他、新規開発して搭載した新機能

①精華町の天気予報をリンクし、画面下部にスペースを作って表示した。
その翌週より視聴者数を伸ばす事が出来た。

②音楽も搭載してみたが関心度が下がる傾向が見られ、ユーザーからも不評にて継続搭載は見送った。

③掲載コンテンツの文字が小さい場合は関心度や視聴者数が下がる傾向にあるため、QRコードを表示するようにした。

④過去コンテンツをもう一度見たいという声が過去からあり、交流室の天井吊り下げ型サイネージを取り外して机上設置型とし、あらかじめ搭載されていたタッチパネル機能を活かして過去コンテンツを閲覧可能とした。

＜課題と対応策＞

・現在のエレベータサイネージのコンテンツ変更は（通信環境的に３Gしか設置できないでもあり）１時間おきが限界であった。将来的に６G等の普及により短時間でのコンテンツ変更が可能となれば、例えば若い女性が視聴した場合はスイーツイベントの表示に切り替わる、等の機能を搭載してみたい。

・現仕様では５秒未満の視聴者は計測されず。実際に４秒（１フロア移動の時間）程度見た視聴者はかなりの数で存在するものと思われる。なお、マスクをしている期間での実証であったため、口もとの表情変化は読み取れておらず、目もとの変化程度しか把握できていない。マスクが無ければ関心度はもっと上がったものと推測される。